



西河 巧

安全で、安心して暮らせるまちづくり

問 本年は、台風や集中豪雨など多くの災害が発生したが、被害の状況と復旧作業の見通しについて問う。

答 7月から9月の期間に道路129件、河川64件、農地関係204件、水路107件、農道24件、住宅91棟、倉庫等31棟の被害があり、農地関連については、土地改良法に基づく災害復旧事業採択に向け、現在国による災害査定を受けている。道路、河川についても、現在まで応急対策を進めると共に、国による災害査定を受け今後本復旧工事に向け順次業者へ発注する。

- 一、安全で、安心して暮らせるまちづくり
二、住民の移動手段の確保



約作成、資機材の購入補助、豊中市消防局能勢町分署と連携して、防災訓練指導等の支援を行う。

住民の移動手段の確保

問 交通弱者に対する認識と取組みについて問う。

答 住民の移動手段の確保については、十分に必要性を認識している。

町としても、公共交通機関の確保、維持並びに公共交通空白地有償運送等の補完交通の導入に当たり、一定の取り組みを行ってきた。

問 自主防災組織の整備について問う。

答 現在6地区で組織が発足し防災訓練等活動している。今後、各地区での組織化については、規

一般質問



平田 要

地域担当職員制度

問 「区長をはじめどなたでも地域の諸問題などについてご相談ください」としているが、制度と住民への周知について問う。

答 職員が特定の地域を担当し、気軽に相談できる窓口としてきめ細やかな対応を図るなど集落活動をサポートする制度としている。地域の区長会やホームページで制度の周知に努めている。

- 一、地域担当職員制度
二、下水道事業の広域化・共同化

ることで資質向上につなげていきたい。ワンストップサービスや担当職員が地域の行事に参加することは、制度として地域への情報提供や相談窓口としての位置付けから想定していない。

下水道事業の広域化・共同化

問 下水道事業経営戦略化に示された将来的に広域下水道への接続を検討することについてどのような検討をしたのか。

答 国から平成34年度までの計画策定が要請された中で、流域下水道への接続の可能性や概算工事費の算出、既存施設の維持管理等を考慮したうえで費用対効果について検討を行うこととしている。

問 能勢町人口ビジョンから平成72年目標人口5275人と示されている中、流域下水道への接続計画をどう想定されるのか、考えを問う。

答 30年40年先を見渡すことになる。現在公共下水道は、町の人口の25%が加入している。水道は平成36年から統合していく。これらを含めて下水道整備計画をまとめていくのには、東西のバランスも考え、最終どう流域につなげるか非常に難しいと認識をしている。

